

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【公表番号】特表2001-525340(P2001-525340A)

【公表日】平成13年12月11日(2001.12.11)

【出願番号】特願2000-523249(P2000-523249)

【国際特許分類】

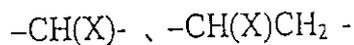
A 6 1 K 31/785 (2006.01)
A 6 1 K 31/787 (2006.01)
A 6 1 K 31/79 (2006.01)
A 6 1 P 17/02 (2006.01)
A 6 1 P 21/00 (2006.01)
A 6 1 P 29/00 (2006.01)
C 0 7 D 207/12 (2006.01)
C 0 7 D 207/14 (2006.01)
C 0 7 D 207/26 (2006.01)
C 0 7 D 207/273 (2006.01)
C 0 7 D 211/46 (2006.01)
C 0 7 D 211/58 (2006.01)
C 0 7 D 211/62 (2006.01)
C 0 7 D 211/66 (2006.01)
C 0 7 D 213/06 (2006.01)
C 0 7 D 221/20 (2006.01)
C 0 7 D 241/36 (2006.01)
C 0 7 D 263/04 (2006.01)
C 0 7 D 401/04 (2006.01)
C 0 8 F 20/34 (2006.01)
C 0 8 F 20/36 (2006.01)
C 0 8 F 26/00 (2006.01)
C 0 8 F 26/10 (2006.01)
C 0 8 F 220/34 (2006.01)
C 0 8 F 220/36 (2006.01)
C 0 8 G 73/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/785
A 6 1 K 31/787
A 6 1 K 31/79
A 6 1 P 17/02
A 6 1 P 21/00
A 6 1 P 29/00
C 0 7 D 207/12
C 0 7 D 207/14
C 0 7 D 207/26
C 0 7 D 207/273
C 0 7 D 211/46
C 0 7 D 211/58
C 0 7 D 211/62
C 0 7 D 211/66
C 0 7 D 213/06

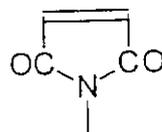
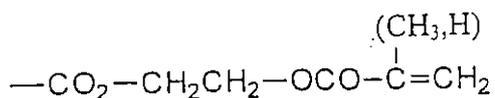
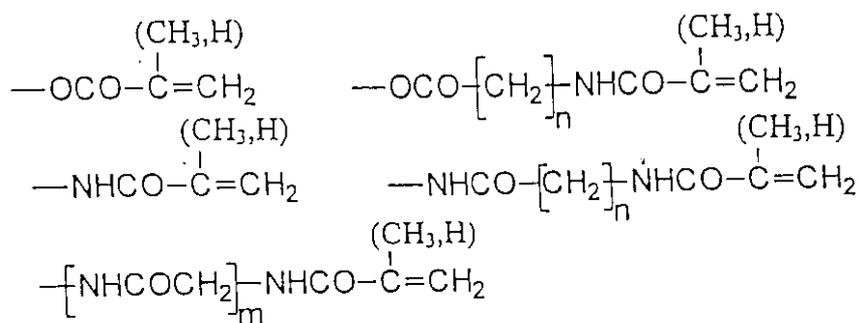
であり、 R_6 は個々にまたはいずれかの組み合わせでアルキル $C_1 \sim C_4$ 、H、OHまたは付加酸化により得られる酸素基であり、そしてWは

【化3】



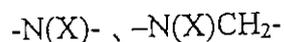
(Xは

【化4】



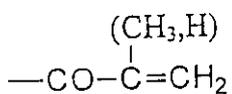
である)、

【化5】



(Xは

【化6】

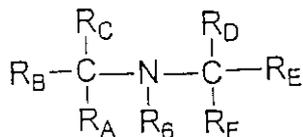


である)、および $-\text{O}-$ 、 $-\text{OCH}_2-$ ($R_1 \sim R_4$ は1個の重合性ビニル基を含む基で

ある)を含む群から選ばれる)の環式立体障害アミンのモノマーから0.01~10重量%の開始剤の存在下にラジカル重合を行うことにより製造される可溶性ポリマーもしくはコポリマー;

下記一般式(F)

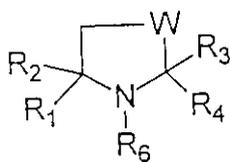
【化7】



〔式中、 $R_A \sim R_F$ は種々の組み合わせおよび表示のアルキル $C_1 \sim C_4$ 、 $-(CH_2)_n$ (n は3、4、5である)、ヒドロキシアルキル、アミノアルキル、カルボキシアルキル(ハロゲン化物、活性化エステル、アジ化物)、イソシアナトアルキルであり、 R_G は個々にまたはいずれかの組み合わせでアルキル $C_1 \sim C_4$ 、H、OHまたは付加酸化により得られる酸素基である〕の二官能性立体障害アミンの重縮合を行うことにより製造される可溶性ポリマー;

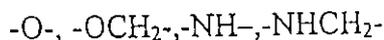
下記一般式(G)

【化8】



〔式中、 $R_1 \sim R_4$ はアルキル $C_1 \sim C_4$ 、 $-(CH_2)_n$ (n は3、4、5である)、ヒドロキシアルキル、アミノアルキル、カルボキシアルキル(ハロゲン化物、活性化エステル、アジ化物)、イソシアナトアルキルであり、 R_6 は個々にまたはいずれかの組み合わせでアルキル $C_1 \sim C_4$ 、H、OHまたは付加酸化により得られる酸素基であり、そしてWは

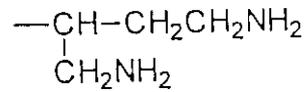
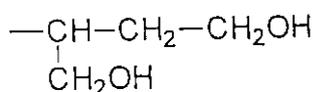
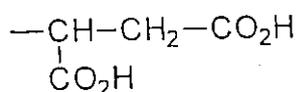
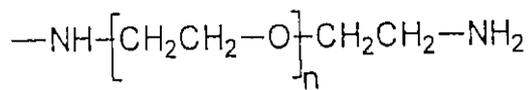
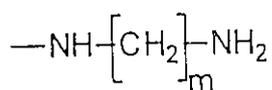
【化9】



($R_1 \sim R_4$ はヒドロキシアルキル、アミノアルキル、カルボキシアルキル(ハロゲン化物、活性化エステル、アジ化物)、イソシアナトアルキルである)、 $-CH(X)-$ 、 $-CH(X)CH_2-$

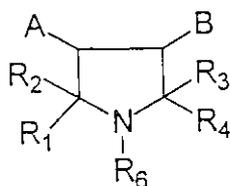
(Xは

【化10】



(n は 1 ~ 10 であり、 m は 2 ~ 10 である) である) の基から選ばれる)

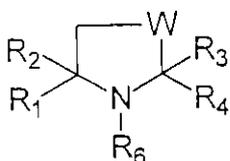
【化 1 1】



(式中、 A、 B は OH、 NH₂、 COOH (ハロゲン化物、活性化エステル、混合無水物、アジ化物)、 NCO である) の二官能性立体障害アミンの重縮合により製造される可溶性ポリマーまたはコポリマー ;

一般式 (G) の二官能性環式立体障害アミンと、 0.1 ~ 15 重量 % の量 (合計の重合混合物を基準) の、 下記一般式 (H)

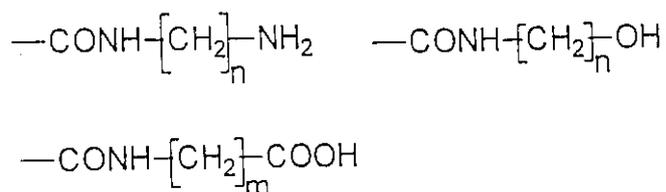
【化 1 2】



[式中、 R₁ ~ R₄ はアルキル C₁ ~ C₄、 - (CH₂)_n - (n は 4 または 5 である)、ヒドロキシアルキル、アミノアルキル、カルボキシアルキルまたはその反応性誘導体であり、 R₆ は個々にまたはいずれかの組み合わせでアルキル C₁ ~ C₄、 H、 OH または付加酸化により得られる酸素基であり、そして W は

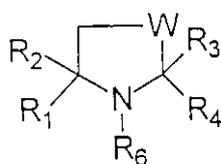
- O -、 - OCH₂ -、 - NH -、 - NHCH₂ - (R₁ ~ R₄ はヒドロキシアルキル、アミノアルキル、カルボキシアルキルである)、 - CH (X) -、 - CH (X) CH₂ - (X は - COOH (ハロゲン化物、活性化エステル、混合無水物、アジ化物)、 - NCO

【化 1 3】



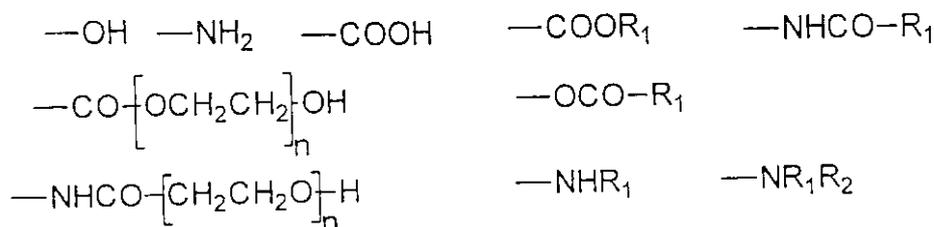
(n は 2 ~ 10 であり、 m は 1 ~ 10 である) である) からなる群より選ばれる) の一官能性環式立体障害アミン、下記一般式

【化 1 4】



〔式中、 $R_1 \sim R_4$ は組み合わせまたはいずれかの表示のアルキル $C_1 \sim C_4$ 、 $-(CH_2)_n-$ (n は 3 ~ 5 である)、ヒドロキシアルキル、アミノアルキル、カルボキシアルキルであり、 R_6 はいずれかの表示のアルキル $C_1 \sim C_4$ 、H、OH または酸素基であり、そして W は $-O-$ 、 $-OCH_2-$ 、 $-NH-$ 、 $-NHCH_2-$ 、 $-CH(X)-$ 、 $-CH(X)CH_2-$ (X は

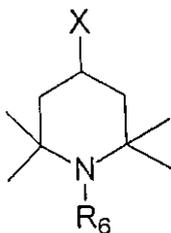
【化 1 5】



(R_1 、 R_2 はアルキル $C_1 \sim C_{10}$ である) である) の立体障害アミンの誘導体との重縮合により製造される可溶性ポリマー；

遊離反応性基の $-OH$ 、 $-NH_2$ 、 $-COOH$ 、 $-CHO$ 、オキシランを含むポリマー、コポリマー、天然化合物であって、ポリ(ビニルアルコール)、セルロース、(2-ヒドロキシエチル)セルロース、(カルボキシメチル)セルロース、寒天誘導体、ジヒドロキシアルカン誘導体、エチレングリコールもしくはプロピレングリコールのオリゴマーおよびポリマー、遊離のカルボキシル基、アミノ基またはアルデヒド基を含む天然もしくは合成のポリマーを用いた縮合により得られるポリマーからなる群より選ばれ、適切な立体障害アミンを用いたポリマー類似体化反応によるポリマーまたは天然化合物の付加官能化により製造されるものであり、前記立体障害アミンは、

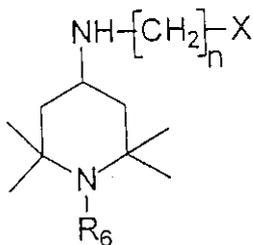
【化 1 6】



〔式中、Xは $-NH_2$ 、 $-OH$ 、ハロゲン、 $-NCO$ 、 $-COOH$ （ハロゲン化物、活性化エステル、混合無水物、アジ化物）、 $-CH_2Br$ であり、 R_6 は個々にまたは組み合わせでアルキル $C_1 \sim C_4$ 、 H 、 OH または付加酸化により得られる酸素基である〕の4-X-1- R_6 -2,2,6,6-テトラメチルピペリジン、

下記一般式

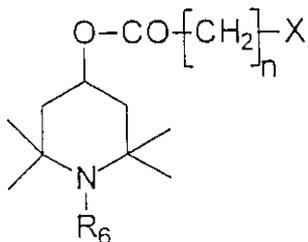
【化17】



〔式中、 n は1～10であり、Xはハロゲン、 $-OH$ 、 $-NH_2$ 、 $-COOH$ （ハロゲン化物、混合無水物、活性化エステル、アジ化物）であり、 R_6 は個々にまたは組み合わせでアルキル $C_1 \sim C_4$ 、 H 、 OH または付加酸化により得られる酸素基である〕の4-〔(n-X-アルキル)アミノ〕-1- R_6 -2,2,6,6-テトラメチルピペリジン、

下記一般式

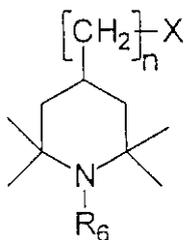
【化18】



〔式中、 n は1～10であり、Xは $-OH$ 、 $-NCO$ 、 $-COOH$ （ハロゲン化物、活性化エステル、混合無水物、アジ化物）、 $-NCO$ であり、 R_6 は個々にまたは組み合わせでアルキル $C_1 \sim C_4$ 、 H 、 OH または付加酸化により得られる酸素基である〕の(1- R_6 -2,2,6,6-テトラメチルピペリジン-4-イル)(n+1)-X-アルカノエート、

下記一般式

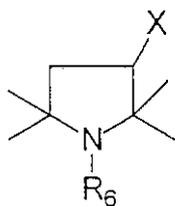
【化 1 9】



〔式中、 n は1～10であり、 X は $-NH_2$ 、ハロゲン、 $-OH$ 、 $-NCO$ 、 $-COOH$ （ハロゲン化物、活性化エステル、混合無水物、アジ化物）であり、 R_6 は個々にまたは組み合わせでアルキル C_{1-4} 、 H 、 OH または付加酸化により得られる酸素基である〕の4-($n-X$ -アルキル)-1- R_6 -2,2,6,6-テトラメチルピペリジン、

下記一般式

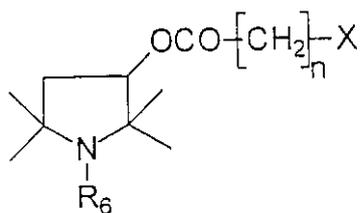
【化 2 0】



〔式中、 X は $-NH_2$ 、 $-OH$ 、 $-NCO$ 、 $-COOH$ （ハロゲン化物、活性化エステル、混合無水物、アジ化物）、 $-CH_2Br$ であり、 R_6 は個々にまたは組み合わせでアルキル C_{1-4} 、 H 、 OH または付加酸化により得られる酸素基である〕の3- X -1- R_6 -2,2,5,5-テトラメチルピロリジン、

下記一般式

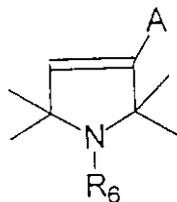
【化 2 1】



〔式中、 n は1～10であり、 X は $-NH_2$ 、 $-OH$ 、 $-NCO$ 、 $-COOH$ （ハロゲン化物、活性化エステル、混合無水物、アジ化物）であり、 R_6 は個々にまたは組み合わせでアルキル C_{1-4} 、 H 、 OH または付加酸化により得られる酸素基である〕の(1- R_6 -2,2,5,5-テトラメチルピロリジン-3-イル)($n+1$)- X -アルカノエート、

下記一般式

【化 2 2】



〔式中、Aは -COOH（塩化物、混合無水物、活性化エステル、アジ化物）、グリシジルエステルであり、R₆は個々にまたは組み合わせでアルキルC₁₋₄、H、OHまたは付加酸化により得られる酸素基である〕の2, 2, 5, 5-テラメチル-2, 5-ジヒドロピロール-3-カルボン酸または酸誘導体、

を含む群より選ばれる、

ポリマー、コポリマー、天然化合物、

からなる群より選ばれる、立体障害アミンの誘導体0.1～99.9重量%を含む製剤。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項5】 アクリル酸およびメタクリル酸、アルキルアクリレートおよびメタクリレート、ヒドロキシアルキルアクリレートおよびメタクリレート、（アルキルオキシ）アルキルアクリレートおよびメタクリレート、（アシルオキシアルキル）アクリレートおよびメタクリレート、アクリルアミドおよびメタクリルアミド、置換N-アルキルアクリルアミドおよびN-アルキルメタクリルアミド、N-（ヒドロキシアルキル）アクリルアミドおよびN-（ヒドロキシアルキル）メタクリルアミド、1-ビニル-2-ピロリドン、ジアセトンアクリルアミド〔N-（1, 1-ジメチル-3-オキソブチル）アクリルアミド〕からなる群より選ばれるビニルモノマーを含む重合混合物から製造される、請求項1～4のいずれか1項記載の製剤。